

研修実施報告

住民流 助け合い 起こしの ヒント

高めよう
地域のチカラ

～皆で一緒になって、地域の支え合い活動を進めるヒントを探ってみませんか～

流山市では、自治会や福祉関係機関の協働により、ひとり暮らし高齢者の見守りや災害時の支援など、身近な地域での支え合い活動が広がっています。

今日は、40年以上にわたり、地域住民同士での支え合いや助け合いを研究し、各方面から普及啓発を進めている木原孝久氏による講演です。

○本日のスケジュール

日 程：平成 29 年 2 月 4 日（土）

時 間：13 時-15 時

内 容：講演・木原先生に聞いてみたいこと

※アンケートの記入をお願い致します。

事例紹介やご意見・要望を自由にご記載ください。



平成 29 年度～平成 33 年度までの
流山市地域福祉計画を策定しています



講師：住民流福祉総合研究所 所長 木原 孝久 氏

東京生まれ。早稲田大学第一政治経済学部卒。福祉施設、中央共同募金会などを経て現職。

40年以上にわたり、住民流の福祉のあり方を研究。「ご近所福祉」、「助けられ上手」、「おつき合い革命」について、マニュアル作成の実践活動から、講演、執筆、ラジオ・テレビ出演等まで幅広く普及活動を行っている。著書に、「支え合いマップづくり入門」、「ご近所パワーで助け合い起こし」、「住民流福祉の発見」「福祉の人間学入門」「ボランティア・セラピー」ほか多数。

災害時にも生きる・つながる、地域の支え合い活動

自治会等の団体を中心に地域の方などが、「少しずつ」「できることを」「できる範囲で」行う、日常的な見守りや災害時の避難支援のための活動です。

市では、支援を必要とする方のうち同意が得られた方について、『支え合い活動対象者名簿』に情報を登載し、自治会や民生委員、地域包括支援センター等と情報を共有しています。

この機会に、日頃の自治会活動の中での名簿の活用をご検討ください。

講座の実施にあたり-地域支え合い活動-

迫りくる大地震において被害を最小限とするには、地域の自助（自主的な取組）が重要となっています。ただし自助の取組みは、災害時に即座に機能するものではなく、平常時からの延長線上、積上げとしてあるものです。そのため流山市では、自治会や福祉関係機関の協働によるひとり暮らしの高齢者の見守りや災害時の支援など、身近な地域での支え合い活動を推進しています。

地域での支え合い活動の対象者は、①75歳以上の高齢者のみ世帯に属する方、②一定以上の要介護認定者、障害等級保有者、③自ら名簿に掲載を希望する方の3つに大別されます。対象者のうち本人の同意が得られた場合には、支え合い活動対象者名簿¹に基本情報を掲載して、平常時から自治会や福祉関係機関と情報を共有しています。自治会との名簿情報の共有においては、活動の趣旨や個人情報の取扱い等を定めた協定書の締結を条件としており、平成29年2月現在、全179自治会中74自治会²（41%）、全8545人5461人（64%）で活動が進んでいます。

流山市では、地域福祉活動を推進するためにも全ての自治会での取組みを目標としています。そこで市内全域に支え合い活動を広げるため、活動の担い手となっている自治会関係者、民生委員・児童委員を対象とした講演会を開催しました。

開催概要

日 程：平成29年2月4日（土）

時 間：13時-15時

場 所：流山市クリーンセンター

リサイクルプラザ・プラザ館

参加者：自治会関係者

民生委員・児童委員

地域福祉関係者など 計120名

¹地域支え合い活動対象者名簿は、災害対策基本法によって、市区町村に策定が義務付けられた避難行動要支援者名簿として作成しているものです。

² 日経新聞（2月14日付け）によると、全国での事前提供率は5割程度と推定されている。自治会数を基準にすると低い数値となっているが、人数を基準とすると全国推定を超えている。